

2026年5月28日

～健全な水循環の保全に向け、雨庭などのグリーンインフラ活用で「ウォーターポジティブ」を推進～ 一般社団法人「熊本ウォーターポジティブ・デザインセンター」を設立

公立大学法人 熊本県立大学（理事長：黒田 忠広）、国立大学法人 熊本大学（学長：小川 久雄）、株式会社肥後銀行（代表取締役頭取：笠原 慶久）、サントリーホールディングス株式会社（代表取締役社長：鳥井 信宏）、MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社（取締役社長 CEO：舩曳 真一郎）は、2025年3月に始動した「熊本ウォーターポジティブ・アクション」^{*1}のもと、雨庭などのグリーンインフラ^{*2}活用によるウォーターポジティブ^{*3}の推進を目指し、このたび、一般社団法人「熊本ウォーターポジティブ・デザインセンター（熊本県熊本市、以下「熊本WPDC」）」を設立しました。

- ※1 2025年2月27日ニュースリリース「[グリーンインフラ普及による「熊本ウォーターポジティブ・アクション」を始動](#)」
- ※2 自然環境が持つ多様な機能を活用し、雨水浸透、流出抑制、生物多様性保全、景観向上、気候変動等の社会課題の解決を図る考え方や取り組みで、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。
- ※3 ここでは「流域内での土地改変や取水に伴う水への負（ネガティブ）の影響に対し、水を育む自然の保全や水源涵養、再生水の活用などにより、流域内に同等以上の水を還元すること」と定義。

1. 背景

熊本地域は豊かな地下水に恵まれており、その一方で、近年の開発に伴う田畑の減少により、地下水涵養機能の低下と水害リスクの増大が懸念されています。雨庭は、開発地にも設置可能であり、雨水の地中浸透を促進して地下水を育むとともに、水害リスクの軽減にも寄与します。加えて、ヒートアイランド対策、景観形成、生物多様性の向上など、緑が持つ多面的な効果が期待されています。

上記の課題への対応として、2025年3月に産学金6組織による連携のもと「熊本ウォーターポジティブ・アクション」を始動し、熊本地域の自治体・企業・住民など多様な主体が参加できる仕組みづくりを進めてきました。特に自治体との対話を重ねた結果、2026年3月に熊本県が発表した「第二期熊本地域地下水総合保全管理計画」においても、涵養域の減少を抑制する方策等の一つとして、雨庭などの調査研究に取り組むこととされました。また、自治体との勉強会開催や、菊陽町・嘉島町などへの支援を通じ、3カ所の雨庭を設置しました。

こうした取り組みをさらに拡大し、地域全体でウォーターポジティブを推進するため、熊本WPDCを設立しました。今後は、多様なステークホルダーと連携し、「水の国くまもと」の持続可能な未来に向けて活動を加速していきます。

2. 熊本WPDCについて

熊本WPDCは、「ウォーターポジティブ」の重要性に関する啓発活動に加え、雨庭の設置支援、効果測定、標準化に取り組みます。さらには、熊本県の地下水涵養指針など、自治体施策への反映も目指します。また、行政による支援や金融機関の優遇措置のほか、グリーンインフラが持つ地下水涵養量等の価値をクレジット化する新たな資金メカニズムの検討を進め、企業や住民を含めた幅広い参画を促進していきます。

なお、設立にあたり会員を募集します。会員は、活動趣旨に賛同する一般会員、地下水涵養に取り組む宣言会員、雨庭の施工を担う技術会員、センター運営に参画する共創会員など複数区分を設け、自治体とも連携しながら、熊本地域におけるグリーンインフラの普及と社会実装を加速します。


3. 今後の展開

2026年7月に熊本市で開催予定の「ネイチャーポジティブ世界サミット 2026^{※4}」の「NATURE TECH!」会場で、キックオフイベントを開催予定です。

水資源の枯渇や森林破壊など、自然資本の劣化が社会やビジネスの持続的成長への脅威となる中、地域や流域の多様な主体が連携し、資金を動員して水資源など自然の価値を守る持続可能な仕組みづくりが国内外で求められています。熊本WPDcは、活動を通じて得られる知見を広く共有し、熊本発の先進モデルとして、国内外の「ネイチャーポジティブ」および「ウォーターポジティブ」の潮流への貢献を目指します。

※4 ネイチャーポジティブとは自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること。本サミットはネイチャーポジティブの目標を推進し、自然と経済の好循環を実現する世界の企業・金融機関・政府・研究者・地域の実践者が議論する国際会議。

法人概要

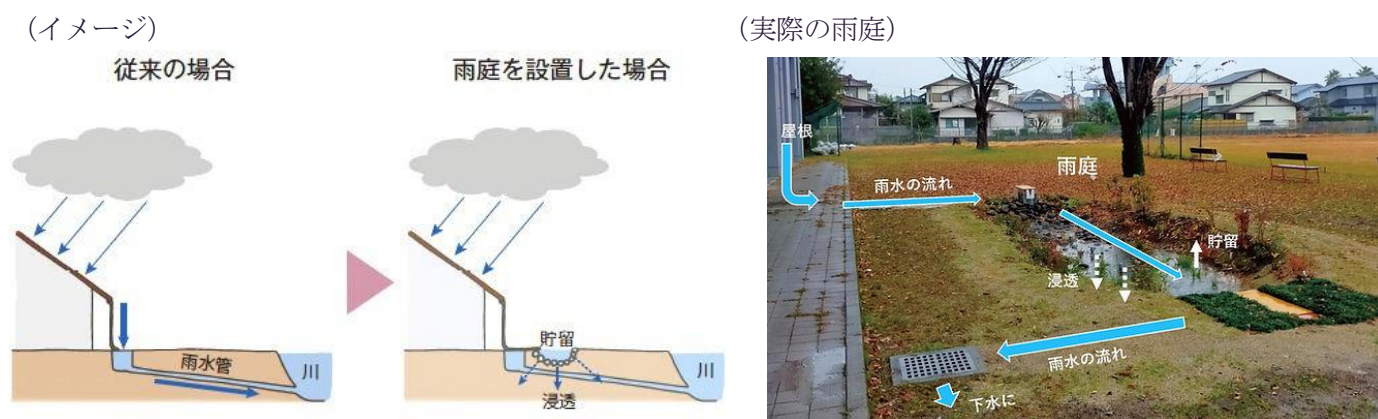
名称	一般社団法人熊本ウォーターポジティブ・デザインセンター	 <p>熊本ウォーターポジティブ デザインセンター Kumamoto Water Positive Design Center</p>
所在地	熊本県熊本市熊本県立大学内	
設立日	2026年4月21日(火)	
代表理事	島谷 幸宏 (熊本県立大学 特別教授)	
理事	石橋 康弘 (熊本県立大学 環境共生学部 教授) 皆川 朋子 (熊本大学大学院 先端科学研究部 教授) 大野 隆 (株式会社肥後銀行 地域振興部長) 瀬田 玄通 (サントリーホールディングス株式会社 サステナビリティ経営推進本部 部長) 原口 真 (MS&ADインシュアランスグループホールディングス サステナビリティ推進部 フェロー)	
URL	https://www.midori-lab.pu-kumamoto.ac.jp/kumamoto-wpdc	

以上

《本件に関するお問い合わせ》
肥後銀行 地域振興部
担当：藤本、平道
電話：096-326-8609

雨庭について

雨庭とは、屋根やアスファルトなどに降った雨水を、排水路や河川に直接放流させず、一時的に貯留したり、浸透させるための庭や空間のことを指します。



【熊本地域での雨庭】

熊本地域では、水がよく浸透するため「ざる田」と呼ばれる水田をはじめ、畑や草地などに降った雨水が地下に浸透し、地下水源を形成してきました。しかし、都市化が進むと、屋根やアスファルトの上に降った雨水は、雨樋や排水管を通じて下水道や河川へ、すみやかに流され、地中に浸透しにくくなっています。その結果、豪雨の際には下水道や河川に大量の雨水が集中し、排水しきれない場合は地上にあふれてしまいます。

それに対し、雨庭は有効な対策となります。雨庭は、屋根などに降った雨水を一時的に窪地に溜めたり、土壤に浸透させることで地下水をかん養する仕組みです。降った雨が地中に浸透し、地下水や湧水となり、健全な水循環の形成に寄与します。また、雨水が河川や下水道に流出する量やスピードを抑えることができるため、洪水の軽減につながります。雨庭を流域のさまざまな場所に設置することで、水循環の健全化が期待できます。

さらに、雨庭は在来植物を植栽することで、生きものの生息場所となり、都市化が進んでも自然生態系の劣化を抑えて生物多様性の保全に役立ちます。また、ヒートアイランド現象の緩和など、多面的な機能を発揮します。緑豊かな雨庭が増え、地域でともに管理することで、世代や立場を超えた交流の機会が生まれ、潤いのあるまちづくりにつながります。

図および写真は「くまもと雨庭パートナーシップ」HP より引用